

## 会 議 記 録

会議名称	平成 27 年度第 4 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 28 年 1 月 30 日 (土) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 13 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 沼田、池田、中島、原田、有永、武者小路、平尾、折戸、田中、菅野、秋永 区側 中央図書館長、中央図書館次長、管理係長、企画運営係長、 情報化担当係長、資料相談係長、事業係長、管理係主査、 柿木図書館長、高円寺図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、 宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、高井戸図書館長、 方南図書館長、南荻窪図書館長、下井草図書館長、今川図書館長
配付資料	資料 1 平成 27 年度杉並区立図書館サービス評価報告書 (対象 平成 26 年度事業) (案) 資料 2 「杉並区子ども読書活動推進計画 (平成 28・29 年度)」素案に ついて 参考資料 利用者満足度調査
会議次第	1 開会 2 議題 【報告事項】 (1) 平成 27 年度杉並区立図書館サービス評価報告書 (対象 平成 26 年度事業) (案) (2) 「杉並区子ども読書活動推進計画 (平成 28・29 年度)」素案につい て (3) その他 3 閉会

○会長 定刻となりましたので、平成27年第4回杉並区図書館協議会を開催いたします。  
本日は社会教育委員の多田邦晃委員と区内大学連携の委員が欠席されています。

それでは、協議会開催の前に、席上に配付されている資料について確認していただきたいと思えます。

○中央図書館次長 はい。ご席上のほうには、本日の式次第と、それから杉並区の利用者満足度、図書館サービス評価報告書、それから子ども読書活動推進計画、それと対比表に、本文と対比表。それから、A4一枚の資料のほうがございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

○会長 それでは、議題に入ります。本日は報告事項が2件予定されています。本日の図書館協議会の開催時間は1時間半ぐらいを予定しています。各委員のご協力をお願いいたします。

まず、報告事項(1)の平成27年度杉並区立図書館サービス評価報告書の案について、説明していただきます。お願いします。

○中央図書館次長 はい。では、事務局よりご報告いたします。

委員の皆様には、大変暑い中、またお忙しい中、各図書館のほうにおいでいただきまして、どうもありがとうございました。申しわけございませんでした。いただきましたご意見とか評価につきまして取りまとめさせていただきまして、このような形にいたしました。

内容でございます。資料1と書いてあるこちらのほうをごらんになってくださいませ。従前どおり、評価でございますが、評価の対象は区立図書館13館でございます。こちらのほうは、基礎といたしまして、平成26年度の数値実績とか各図書館で行った自己評価であるとか、ページをめくっていただきまして、利用者の方からいただきました満足度調査、こちらのほうを基準に行っていただきまして、前は委員の中の一部の方にこちらのほうの評価のほうをお願い申し上げましたが、今回は委員の皆様全員に評価のほうに携わっていただきました。どうもありがとうございます。申しわけございませんでした。

こちらのほう、作業部会でいろいろお話のほうもいただきました。1人の部会員がそれぞれ四つの図書館と中央図書館分を見ていただきました。その分け方ですが、直営館1館と指定管理館2館、業務委託館1館という形の評価を対象にいたしました。評価につきましては9月から11月まで、資料を基礎として何度も行っていただいたり、またヒアリングなどを行っていただきまして、図書館の評価を行いました。

2ページのⅡ以降がその評価の内容でございます。評価の内容といたしましては、1番の

総括的評価、3ページにございます取組目標別評価、ページをめくっていただきまして、運営形態別評価を行いまして、最終的に各館別の評価にまとめました。

2ページに戻っていただきまして、総括的評価については読み上げさせていただきたいと思ひます。

中央図書館は、杉並区の図書館行政の中核である点を十分認識し、他の地域図書館と連携協力して、より区民サービスの向上を目指してもらいたい。昨年度よりも事業内容も明確に把握し、改善されてはいるが、杉並区立図書館の運営方針には、中央図書館が先導に立って推進していかなければならない。直営館も昨年度よりも前向きに運営を進めているが、事業の実施にあたって計画的に行うことが求められる。特に、利用者満足度に留意して、事業を検討してもらいたい。指定管理館においては、いずれの館も前向きに取り組んでいる。図書館の運営について中央図書館との運営をしっかりと行うとともに、指定管理者制度を活用した区民サービスの向上を展開してもらいたい。業務委託館においては、区民満足度において高い評価を得ているところであるが、さらに、民間として培ってきた実績を委託事業に反映し、引き続き質の高い区民サービスを実施してもらいたい。今年度は、図書館サービスについては、新たな方法で評価を行い、改善すべき点を各館に示しました。各館においては、新年度の事業計画等において、これらの点を具体的に反映し、実施することにより、さらなるサービスの向上を図ってもらいたい。

大変貴重な評価のほうをいただきました。ありがとうございます。

この内容に基づきまして、2、3、取組目標別それから運営形態別で、それぞれこれを基準にいたしまして、これからの来年度の計画も立てます。そして、各館別評価におきましては、よく評価できる点につきましては伸ばさせていただきます。改善すべき点については、十分中央図書館、センター館とも連携いたしまして、対応していきたいと思っております。ありがとうございました。

この評価につきましては、さまざまな評価のほうをいただきまして、まだ新年度でございいますので、改めるべき点が数多く見受けられました。行い方、評価の方法につきましても、十分に留意しなくちゃいけない点につきましても、いろんな意見のほうをいただきました。来年度、平成28年度はその点に十分留意して、よりよい評価のほうをいただけるような形に持っていきたいと思ひます。

以上で、簡単ではございますが、報告のほうを終わります。

○会長 説明ありがとうございます。

何かご質問はありますか。あと、皆さんがこれを読まれてから、意見をいただいたものに関しては、それが反映されているか、ちょっと確認していただいて。少し時間をあけないと確認できないとは思いますが、確認していただきながら、何かご質問があったら、よろしくお願いたします。

○委員 すみません。南荻窪図書館のところで、私が出させていただいた報告書というかレポートには、私は子連れなので、ちょっと赤ちゃん目線で書かせていただいた部分があったんですけども、それが多分——入っていないのは別に気にしていないんですけども、その報告書自体を当該の図書館の方は読んでいただいたりとかしているのであれば、いいかなと思うんですけども。ちょっと子連れでは使いにくい部分が幾つか見受けられて。例えば授乳室が、のれんがかかっているだけで丸見えだったりとか、ベビーカーを使う場合にはエレベーターを使っていいと。節電中という表示があったりして、ちょっと荷物が多い人で、だっこの人は使っちゃいけないのかなとか、そういうとても細かい部分だったので、省いていただいたのかなと思うんですけども、もしその施設の方が目にしてくださるのであれば、私は、はい、いいかなと思うんですが。

○会長 はい。

○中央図書館次長 その点につきましては、当然、図書館側のほうにはお示しさせていただいておりますので。ありがとうございます。

○委員 あ、はい。すみません。細かいところで。

○中央図書館次長 すみません。総括的な内容になってしまっておりますので、申しわけございません。

○委員 はい。ちっちゃいところなので、大丈夫です。

○中央図書館次長 同様な形で、高円寺なんかにつきましても、ドリンクコーナーを持ってきてもらいたいとか、そういうご意見はいただいたんですけども、当然それは館のほうにお示しさせていただいております、総括の分は、申しわけございません、表記しておりません。

○会長 ほかにご意見はおありでしょうか。

どうぞ。

○委員 今質問の出たこととも関連するんですけど、この協議委員というのは、予算がどうなっていて、水飲みのそういうものは各館がそのお金の中で勝手にできるのか、そういったことが何もわからないで評価をすると。全体的な体系で言いますとね。だから、やっ

ぱりそのところの限界と、じゃあ、何をもって貢献するかということをもう少し協議会で。来年からはですね。こうしてみんながやったり、楽しく読めて、みんなが、あ、これならここはちゃんと自分たちの責任でやっていこうとか、あるいはここをやったら杉並区の図書館はよくなるなというような、やっぱり全体像を知って、そこでおのこの役割をきちんと定め、やっていくという方向に持っていくことができたなら、もっと楽しいこの会になるんじゃないかなと感じました。非常に過去との兼ね合いがありますから、難しいんでしょうけれども、その辺にちょっと力を入れていったほうがいいんじゃないかなという感じがします。

○会長 ほかに、来年度の評価にかかわる意見でもよろしいかと思うんですけど、ご意見がおありの方は。

○委員 いいですか。評価のもとになっているものが、やっぱりサービス基本方針、そこに向かってどれだけ各館が努力しているかということが多分見た評価だと思うんですけど、この評価基準になって、もう再三この会では申し上げているんですけど、目的を立てて、それを実行して、それがどういうふうに行われたかということ自分たちでまず評価して、次年度以降はこうしていこうということが評価表には示されていたと思うんです。で、私たち委員というのは、各図書館から出てきたその評価表を、まあ、読んでですよ、想像力を働かせたり、または実際に現地に行ったりして、前々年度ですよ、それがどういうふうに行われていったかというのを、ほかの利用者満足度調査であるとか、その他の数字の資料で判断してきたんですけど。

この評価の仕方というのは、各館別で、よく評価できる点ということと、改善すべき点というふうに出てきていて、改善すべき点は、今年度のものにはもちろん反映されなくて、28年度以降のものに反映されていくんだろうなというふうなことは思うんですが、運営形態がやっぱり直営、業務委託、指定管理というふうに分かれていて、だけど杉並区としては目指すところは一つというところで、少しずつ、読んでいても何か微妙なこの温度差みたいなを感じるのは、前回もどうしてなのかなというのはすごく思ったところなんです。

いや、何か、何を言わなきゃいけないのかちょっとわからなくなってきたんですけど、やっぱり昨年度もそうでしたけど、実現可能な目標をまず設定するということが一番大事で、各館がやっぱりきちんと、何ていえばいいんですかね、地域の人たちに接するのは窓口なので、その窓口でどれだけ地域の人たちが望んでいることをすくい取っているのかなということ、読んでいてすごく感じたというか。特に、この運営形態の中で業務委託館

が非常によいとかと書いてあるんですけど、私個人的には、その業務委託館の評価を読んだときに、業務委託館の館長である人が、どういうふうな運営というかその図書館の経営をされているのかなというのを、ちょっといろいろと思うというか考えるというか。中央図書館はまた別なんですけど、同じ業務委託でも。そういうこともすごく、どうなっているんだろうというふうなことを感じました。多分その館長が何年も何年も同じ人だったらまた話は別なんでしょうが、どんどんかわっていけばいくほど、業務に携わっている民間の方との連携とかがどうなるのかなというのを、今後もちっとよく見ていきたいなというのは、読んでいて感じました。

何か中央図書館の評価表というのが二つ出たじゃないですか。業務委託館と、それと職員の方から。であれば、ほかの業務委託館も、まあ、職員は館長お一人でしょうけれども、簡単に役割が二つあるのかなんていうようなことを素朴な疑問で思ったりもしました。

あと、このサービス評価報告書には、提言というか我々の全体としての意見というのは最後に出ないのかなというの、ちょっと今、ぱっと見て感じました。

以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。

前年度の評価報告書では、総じて直営館と業務委託館の評点が低いというふうな総括があって、それは利用者満足度調査結果集計表と相関が見られるというふうなことがコメントされていて、今回は利用者満足度調査自体が12月に行われて、その結果と相関を求めるとか、あるいはその運営形態によって何か傾向が見られるのかとか、そこまで読み取れる機会がなかったんですけど、そういう前年度の調査との継続性で、やっぱりそこで指摘されたことが今年度生かされて改善が見られるのか、それとも何か同じことを指摘しなければいけないのかというようなことを、もうちょっと詳しく調べられればよかったと思うんですけど。

そういったちょっと、前年度に比べて、今おっしゃられたように総括評価の部分が前年度はかなり枚数があって、一応そこも、以前指摘されていることも一応念頭に、今回の総括的评价というところに一応念頭にはして、総括的评价というところを書いた面があるんですけど、ちょっと前年度に比べると、その部分が、基本的には一つ一つが短い。ですから、突っ込み不足かもしれないなどは個人的には思っているんですけど。そういう点も、次年度に、やっぱりもうちょっと継続性を意識してまとめる必要があるかなというふう

思いました。

○委員 これ、非常に楽しく読ませていただいて、全体的にみんな本当によく頑張っているなど。それはこれを見れば非常によくわかるわけですね。ただ、私はビジネス界にいたものですから、一つの目標に向かって、本当にその努力というのが何か前進しているのか結実しているのかというのがよくわからない。それは、そういう目標をちゃんと10年後にはこうなりますよと掲げながら、そこへ直結するようなシナリオになっていないというのが、いらいらしている一つの根本的な理由だと思うんですけども。

しかしながら、みんなが頑張っていると。頑張っているんだけど、収れんする先が何かちぐはぐになっていると。例えば、これをみんなで作って、レファレンスというのがこの席で、レファレンスって、今、杉並区が求めている水準というのは一体何ですかと。何を杉並区としてはレファレンスと定義して、どういう技術を習得しようとしているのか。毎年毎年レファレンス。これ、ことしのやつを、例えば中央図書館についてはレファレンス研修の実施、よくやりましたね。柿木図書館はレファレンス知識習得のための専門的な機会を設けること。高円寺はレファレンス事例研修の実施をすること。要すれば、レファレンスを周知徹底すること。それぞれがレファレンスに関して一生懸命やっていることは間違いのないんだけど、杉並区のレファレンスに関する技術というのはどの程度が最高水準であって、それにおくれている館はその1年のうちにどこまで行くべきなのか、行かないかいかんのかというのが、きちっとこの中に、一言でやっておれば、この館はまだその水準に行っていないと。ここはよく達成しました。評価も非常によくできるわけですが、目標と勝手に掲げてやっていることがばらばらで、それが誰かに評価してくださいといっても、評価はできないという現実がどうしてもあっちゃうんですね。

ですから、評価がしやすいように指示を与えて、そして省力を図って効率化を目指すという、そういうシステム化の検討をみんなやったほうがいいんじゃないかなというところに私は結論は持ってきてしまうんですけども。それについて、私の意見がちょっとおかしいんじゃないかというところがありましたら、言っていただきたいんですけども。

○中央図書館長 中央図書館です。今の幾つかのご意見、ありがとうございます。まさに目標値の年次別設定それぞれ、各館別、そういう形で持っていくべきでないのか、あるいは明確な設定をして、そことのギャップをどう埋めていくのか。これを1年間どれだけできたか、超えたか超えないか、超えなかったときにはどうしてなのかというのが一般的な計画行政、行政でいいますと計画の事業ということで、じゃあ、複数の委員の方から今ご

意見をいただきまして、そのとおりであるというんですか、私としてもそれは必要であると考えております。

そして、特に今期、そのときで、今までの評価と比しまして、各館別で具体的に、今までですと比較的 A、B、C とか、いろいろ数字、具体的なものはいただいたんですけども、表に出るときにはそれが一覧表となって、少し各館が見えないような形になっていたような業務報告で。かなり細かくはやっていただいたんですけども。ということで、今期それを少し各館別に出して、実は終わりのときに、ちょっとご挨拶のときに申し上げようかなと思ったんですけど、今、複数の委員の方からご指摘いただいた、その評価と改善点が来年度、実際にはこれ、1年前なんですよ、1個前の年になりますけれども、ただ、今の時期にこれをご報告いただいて確定しますと、ちょうど次年度の事業計画の時期に当たります。これは、もう一つは中央館がセンター館としての役割を果たすということと連動しますけれども、次年度の計画を何となく前年度のいわゆるコピー・アンド・ペーストするものではなく、実際に指摘を受けて、よい点はどう伸ばしていくのか、あと改善すべき点はどう改善していくのかは、各館が見られることができること。これが、今回皆さんからご提示いただいた各館別で大変わかりやすくなったかなと、私どもは思っておりますし。

もう一つは、中央館がそれが見られるようになったというのが。つまり、私どもも、これは全部各館ごとの事業計画。これは中央館も入ります。中央館としての業務計画もありますけども、これを年度末から年始、年初めですね、年度初めに出すときに、ここでいただいた評価を我々が中央館として見て比べることができる。これが、今回の評価で非常に、実は私、一番ありがたかったかなと思っております。

さらにもう一つは、水平展開ができるかなと思っております。よい点は見習えばよい。先ほどご意見いただいたように、業務形態別、これも少し異なります。また、事業者運営も、当区の場合にはそれぞれ自由競争の中で、運営している事業者、例えば指定管理、業務委託にしてもそれぞれ運営館、事業者の方が異なると言われますけれども、これを共通で見ることで、相手のよい点は水平展開できるかなと。これも来年の計画に向けてちょうど私ども内部のほうでは検討しておりますので、これをご意見いただいた上で、多分この新年度の事業展開の報告のときには、これを踏まえてどういうふうにするのかという前振りが入る事業計画になるかなというふうを考えておりますので、本当にこの形態で、ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。レファレンスについてはなかなか評価というのが難しい



と思うんですけど、利用者のアンケートを見ると、レファレンスについては、何か期待しないとか、そういうような意見が意外とあらわれているようなんですけど、でも、実際にはレファレンスの件数もふえていると思いますし、ちゃんと答えてもらったときには、余りそれを何か書くとかというふうな形で反映されていないので、大部分の人たちはまあ満足していただけるんじゃないかというふうに思えるような気がするんですけど。

○委員 レファレンスの専門家を育てるとするのは、物すごく今後の図書館を考えるときに大切だと思うんですね。ただ、そこに本がありますとか、そういう問題はもう当たり前のことだと思うんですけども、やっぱり長年かかるものだとすれば、今から杉並としては、このレファレンス係というものをどういうふうに考えて育てていくかということも考えてほしいなど、そんなふうに思っていました。

○会長 はい。あと、事例のデータベース作成に関して、中央図書館が主導してほしい。それからまた、各館に関しては、レファレンスの事例を中央館に集約するのを努力してほしいということがあったと思うんですけど、それがだんだんできてくると、意外と、例えば杉並区の何か郷土史館とかそういうことについてこんなことを調べてもらいたいというようなときに、ここまで図書館が調べてくれたというようなことがだんだん積み上がっていくと、レファレンスがもうちょっと認知されて、利用されるようなことになるんじゃないかと思うんですけど。

ほかに。では、よろしいでしょうか。

この評価については、予定よりもずっと遅くなってしまって申しわけなかったんですけど、事前にお配りして、意見も頂戴して、それを調整して盛り込むような形で、きょうの案に反映しています。それから、また来年度の評価に当たっての意見やなんかも、あらかじめお送りいただいたり、また先ほどいただいたので、それも今後の課題の中で取り入れて、来年度、ことしよりは少しでもいい形の評価を行いたいと思うんですけど。

一応、本日いただいた意見についての扱いは私と事務局のほうに一任していただいて、一応、今年度の評価報告書は、基本的にこの形でよろしいでしょうか。

○委員 異議ありません。

( 了承 )

○会長 どうもありがとうございます。それでは、私と事務局のほうに一任させていただきます。

次に、報告事項の(2)の杉並区子ども読書活動推進計画素案について、説明していただ

きます。

○中央図書館次長 はい。では、中央図書館次長から、またこちらの件についてご報告させていただきます。

杉並区子ども読書活動推進計画——子どもの読書に関する活動を推進、文字どおりの言葉なんですけども、図るための計画でございます。現在の計画が平成25年度から29年度でございまして、27年度、一応中間期でございますので、見直しをしようという形になっております。一応、実行計画であるとか、ほかのビジョン推進計画というような上位計画のほうとの整合性を合わせる必要もございまして、またその間、もっと目標を達するためには頑張らなくちゃいけない事業もあるんじゃないかということを考慮いたしまして、少し見直させていただきました。

見直しに当たりましては、専管機関でございます子ども読書推進活動懇談会というのがございまして、こちらのほうも懇談会を形成いたしておりまして、意見のほうを伺わせていただきました。その以前に、一応区役所の管理職等により構成いたします推進計画改定委員会のほうでもこの内容について何回か検討させていただきました。現在の案とさせていただきます。さらに懇談会のほうにその内容を持ち込ませていただきまして、いろんな意見のほうをいただきました。

で、改定素案の概要でございます。A4のこちらのほうをごらんになっていただけますでしょうか。資料2という表示のほうをさせていただきます。

この概要でございまして、目標値、従来から、七つ、掲げております。そのうち実際に目標を達成しているものと、まだ未達のもの、もうちょい頑張らなくちゃ目標を達成できないものもございましたもので、その内容について再検討させていただきました。

未読者の割合であるとか学校図書館図書標準100%達成率とか読書活動指導計画策定校の割合、こちらにつきましては従来どおり伸びてはいるんですけど、まだまだ伸びない部分がございますので、目標値のほうは変更しておりません。

これに対して、学校図書館の一人当たりの年間貸出冊数が、もう26年度の段階で当初の目標を超えてしまいましたので、29年度は小学校については39冊に、中学校については14冊に上方修正いたしました。また、乳幼児と保護者を対象とする事業への参加者数なんですけど、従来よりも数字をはるかに超えてしまいましたので、こちらのほう、計画のほうも調整いたしまして、1万5,000人と上方修正いたしました。同様に子どもを対象とする事業への参加者数も4万3,000人と上方修正を。それから区立小・中学校の調べ学習の資料の貸

出冊数も2万1,000冊と、少しですが上方修正させていただきました。

この目標値の上方修正に関しまして、懇談会の委員様のほうからいろいろご提言がありまして、単に数字を伸ばせばいいんじゃないと。実際に必要なのは、子どもが読む読書の質が大事なんだよと、そういうご意見のほうをいただきました。とても大切なことございまして、新しい東京都の計画などでも読書活動に関する計画でも、やはり子どもの、量だけじゃなくて質も大切なんだよということが提示されております。杉並区のほうは、従前からこの質についても大切だと考えておりまして、さまざまな賞とかそういうのも含めまして、子どもの読書を深めよう、内容についてより深く理解してもらおうという形の計画のほうも含んでおります。ただ、どうしてもまだ図書館の図書標準達成率とか未読率が低いもので、個別事業新規項目ということで、次の三つの項目を立てさせていただきました。

一つが学校図書館を活用した教育活動でございます。これは学校図書館の活用指定校とかモデル実践校として、教員と学校司書との連携による学校図書館を活用した教育活動の実践的な研究を行うということで考えております。

もう一つが子ども向けの外国語図書の充実でございます。2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されますので、子ども向けに書かれた外国語の絵本なんかを充実させていただきますして、日本の子どもたちの国際理解を進めるとともに、また区内にも結構外国籍の子どもたちがいらっしゃいますので、母国語の本に接する機会を創っていききたいと考えています。

それから、学級貸出選定への支援でございます。子どもたちの読書活動を支援するために、読み物を中心とした学級文庫なんかに貸し出しをしているんですけども、特に小学校の学級貸し出しの際に参考になるようにという形で、年齢に合わせた本の選び方を記載いたしました選定マニュアルをつくって配布して、また説明会なんかを開いて、より子どもの読書への関心を高めようと考えております。これが新しい新規の項目で入れた点でございます。

このほかの主な変更点といたしまして、「趣旨」の記載事項の表現とか、これまでの計画に対する評価とか、現行計画の新規計画の表現の修正とか、その他軽微な文言の修正なんかを行っております。

あと、計画の期間なんですけども、一応28年度・29年度の2年間を計画の期間といたしております。この計画につきましては、上位計画である杉並区の実行計画とか杉並区の教

育ビジョンの2012推進計画の改定に合わせまして、必要に応じて見直しを行うと考えております。

以上がこの素案に関する概要のご報告でございます。

○会長 ありがとうございます。

何かご意見、質問はありますでしょうか。どうぞ。

○委員 いいですか。学校図書館の一人当たりの年間貸出冊数なんですけど、小学校はあともう少しというようなところなんですけど、中学校は9.1冊から上方修正で14冊というのは随分はね上がっているんですが、これは当初、12冊ですよ。

○中央図書館次長 当初12冊でございました。

○委員 それでいいんじゃないかなと。何か余りこんなにはね上げられると、学校のほうでまた、ちょっと何かいろいろ頑張れというような話になると、ちょっと結構きついものですから。どんなものなんでしょうか。

○中央図書館次長 こちらのほうもいろいろ検討させていただきまして、それぞれの所轄のほうで研究させていただきまして、実際に中学校になると受験なんかもございますので、どうしても図書のほうに接する機会が少なくなってしまうんですが、やはりその中でもどうにか増やしていただけたらいいなという感じで、実行計画と推進計画のほうも14冊にさせていただいておりまして、それが相当なのかなというふうに考えておりました。

○中央図書館長 もう一つ、すみません。まさに先生のほうから。実は、23年度の実績は5.6冊だったんですね。24年から図書館司書が完全配置ということで、それが9.1冊まで26年度実績で上がって、単純な伸びとっちゃ申しわけないんですけども、12冊ということでも確かに、多分到達、何とかできるだろうと。ただ、この伸ばしを見ると、13.何冊ぐらいに、こう、ちょっと伸びていくような形もあるのかなというのがありまして、実はこの計画の前の——教育ビジョンだっけね。

○中央図書館次長 はい。

○中央図書館長 区の上位計画であります教育ビジョンのほうで既に14冊ということは、これはもう、3年前の計画でございましたので、その後、改定いたしました教育委員会のほうの基本計画であります教育ビジョンのほうに、既に14冊、当時の伸びを見て設定しましたので、今回、上方修正というと同時に、区の上位計画との数字も合わせたということで、ご理解いただければと思います。頑張って、その14冊という形で私どもも一個一個進めてまいりたいと考えております。

○会長 ほかにご意見、ご質問はおありでしょうか。

一応、子どもは18歳まで。

○中央図書館次長 さようでございます。はい、18歳まで一応子どもという形で対応のほうを考えております。

○会長 はい。

それと、どうしても小中学校が中心になるわけですけど。

○中央図書館次長 さようでございます。高校生につきましては、なかなかこちらのほうからも難しいところなんです。YAコーナーとかそういう絡みで、できる限り高校生なんかの読書についても推進していきたいと思っておりますし、小中学校でこういう読書の習慣をつけておくことによって、高校になっても、そして大人になっても、読書に親しめるような習慣を身につければいいなというふうに考えております。

○会長 どこの自治体も、やっぱり同じような感じなんでしょうか。

○中央図書館次長 さようでございます。

○会長 はい、わかりました。

ほかにご意見、ご質問はおありでしょうか。

( なし )

○会長 それでは、子ども読書活動推進計画素案に関する今後のスケジュールについて、説明してください。

○中央図書館次長 はい。こちらのほうはまだ素案でございまして、この後、区の内部意思決定のほうを経まして、教育委員会に付議させていただきます。それから、議会のほうに報告させていただきます。それから、やはり子どもの読書ってとても大切なことでございますので、区民からの意見を伺いたいと思っております。パブコメをこの後1カ月間ほど、30日間かな、行いまして、皆さん、区民の意見をいただきまして、それからこの内容を修正して、また内部意思決定、それから議会へという形で持って行って、4月もしくは5月には報告したいと思っております。

○会長 はい。報告事項については、以上でよろしいでしょうか。

○中央図書館次長 あと、もう一件ございまして。よろしいでしょうか。

○会長 はい。

○中央図書館次長 来年度からの図書館の運営でございまして、従前もご連絡したんですけども、指定管理館と業務委託館につきまして行っております。指定管理館につきまして

は議会のほうの議決のほうをいただきまして、12月のほうに定まりまして、一応、成田図書館と阿佐谷図書館では丸善・東急コミュニティーが、永福図書館と方南図書館はヴィアックスグループが、宮前図書館と高井戸図書館は杉並区TRCグループ、従前と同じグループが決定いたしました。

さらに業務委託館につきましてもプロポーザルのほうを行いまして、いろいろ行わせていただいたんですけども、同様に中央図書館と下井草図書館、南荻窪図書館につきましては、株式会社図書館流通センターの杉並営業所が、それから今川図書館については丸善株式会社が来年度以降も行っていただくことになりました。

以上でございます。この件につきましても、指定管理館につきましては杉並区の図書館のホームページのほうで掲載させていただいております。

○会長 はい。ありがとうございます。

次年度以降の委託館、指定管理館の業者が決定した旨の報告がされましたが、何かご質問はありますか。

○委員 すみません。前回の協議会でも質問したんですけど、指定管理館の応募業者数、各グループに2社ずつということでしたが、全体で何社だったのでしょうか。

○企画運営係長 応募事業者は全体で13社。

○委員 13社。

○企画運営係長 ええ。

○委員 1社、1社、別々。

○企画運営係長 そうですね。図書館サービスの事業者さん、施設維持の事業者さん、合わせて13社。

○委員 施設も合わせて13社。

○企画運営係長 はい。

○委員 そうすると、例えば丸善、ヴィアックス、TRCということになると、その他は、業務のほうを、施設ではない業務を担う会社は何社応募してきたんですか。

○中央図書館長 すみません。少し、ちょっと補足させていただきます。共同企業体で応募しております。

○委員 はい。そうですね。

○中央図書館長 今ちょっとご説明が不足——例えばここで行きますと、ちょっと今説明がありました丸善・東急コミュニティーというのは、我々の中ではその事業者はそれぞれ

別々に今ちょっとご発言したんですけれども、丸善と東急コミュニティーで、共同企業体で1社という扱いでしておりまして、それぞれ今回、指定管理については、いわゆる対抗というとおかしいんですけれども、複数社がそれぞれ名乗りを上げたという形になります。

○委員 うーん。1グループの成田、阿佐谷について言うと、もう、2社ずつ。

○中央図書館長 ええ。ヴィアックスグループにつきましては、ヴィアックス1社で、あとは指定管理としてはヴィアックスということで、共同企業体ではなく単体で。ただ、当然それぞれのいわゆるメンテナンスや掃除というのは、それぞれその指定事業者が行っており——あ、すみません。ヴィアックスにつきましては、ヴィアックスと関連企業でありますやはりメンテナンスのほうが共同企業体で、名称がヴィアックスグループということでしております。

同じように、TRCグループにつきましても、図書館流通センターと、これはTRCの関連会社でございますTRCファシリティーズと、そちらのほうがいわゆるメンテナンスを行うというところで、それぞれ今のご説明のとおり、いわゆる図書館のメンテナンス系と図書館の貸し出し、そういう行うものはそれぞれ、建設共同——いや、建設じゃない、この場合は共同企業体ですね。を組んで、受託したというものでございます。

○委員 そうすると、図書館としては、丸善・東急コミュニティーで1社ということで。

○中央図書館長 そう。1事業体という形で考えております。

○委員 1事業体。

○中央図書館長 はい、1事業体ということです。

○委員 そうですか。そうすると、私の質問の仕方がおかしかったんですよね。幾つの事業体が応募してきたんですか。

○企画運営係長 事業体としては、6になります。大変失礼しました。

○委員 じゃあ、6事業体。ありがとうございます。

○企画運営係長 はい、6です。

○中央図書館長 2、2、2という形で、今回、指定館については。

○委員 はい。

どうして前回も今回もこういうことを申し上げたかといいますと、この指定管理を導入するということに相当な、協議会で、私は委員ではなく傍聴席の一人として伺っていたんですけれども、やはり指定管理を導入するということで、いろいろ、みんな危惧したわけですね、初めてのことだったので。で、何年間かして、指定管理をこのように評価してい

って、じゃあ、次、どこを受けるかというときに、5年後に変わったんでしたっけ、6年でしたっけ、最初の期のが。6年目で変えた……

○中央図書館長 3年、3年で。当初3年ですね。

○委員 3年、3年。今もう6年になっているんですか。

○中央図書館長 いえ、今回5年という。

○委員 で、6年目。

○中央図書館次長 原則5年で、例外3年という形になっております。

○委員 じゃあ、新たに募集をするときに、その次の応募があるかどうかとかということ、要するに競争でこう受けていくんだから、正常な競争がなされるかどうか。やっぱり区民にとっては、よりよいサービスが求められるということで、まあ、たくさんの中から選ぶというのが競争原理としてはいいんだろうけれども、どれだけ杉並区が、要求水準というんですか、それを出して、その要求水準を満たすような企業が名乗りを上げるかという、そういうところにも関係すると思うんです。

私はたまたま2社でも、複数業者が出てきたよかったなとは思っているんです、心の中では。でも、やはりできれば指定管理館をよりよくするために、もう少しその競争の中を勝ち抜いてきた、そういう業者が杉並のために指定管理業務を担ってくれるのがよいのではないかという意見があります。だから、最初に各グループ2業者ずつと聞いたときに、ああ、少ないなと思ったのが、何というのか、ちょっと、うそのない感想なんです。

だけれども、私がこれで二度目の評価をさせていただいた段階で意見を言わせてもらおうと、指定管理館はとてもいいというふうには今は思っています。できれば、それをやっぱり継続して行ってほしいけれども、契約という年数があるので、その辺の問題もあるんでしょうけど、たまたま今回のその更新に関しては、みんな今までのところが残って、今までの館長が残ってくれて非常によかったというのが、私を初め私の周りというか、まあ、文庫サークル連絡会ですけれど、指定館はいいのよね、というのが大方の意見です。だからこそ、本当は直営館と業務館にとっても頑張ってもらいたいと思っています。

○中央図書館次長 ありがとうございます。

○委員 すみません。業務委託館のプロポーザルでの募集は、そうすると何社ぐらいだったんでしょうか。

○企画運営係長 はい。中央図書館については1社です。南荻、下井草図書館についても1社です。今川図書館については3社の応募がございました。



○委員 下井草は。

○企画運営係長 1社です。南荻と下井草は一括して応募しておりますので、1社になります。

○委員 あ、そうなんですか。ありがとうございます。

○会長 ほかにご質問はありますか。報告事項については以上でよろしいでしょうか。

○中央図書館次長 先ほどご説明するのが不足したかと思うんですが、こども読書活動計画、これはまだ素案でございまして、ここでは確定ではございません。この後の意見のほうを入れて、いろいろまだ修正する部分はあるかと思っておりますので、よろしければ、またこの後ご意見のほうをいただけたらと思っております。それが一応こちらのほうのご報告事項の足りなかった部分でございまして。

○会長 その他、事務局から連絡事項等がありますでしょうか。

○中央図書館次長 次回以降の協議会についてご相談申し上げたいんですが、大体図書館協議会は例年4回ないし5回行っております。従来から、委員の皆様からはもっと早目早目に次の予定をというふうにお話のほうをいただいているんですが、できましたら3月にあと1回開きまして、ご意見のほうを伺いたいなというふうに考えております。と申しますのは、中央図書館の改修等につきまして、皆様からの意見のほうを聞けたらなというふうに考えておまして、ただ、ご意見をいただくに当たっても、ある程度の準備をさせていただかないとご意見のほうの出ようもないかと思っておりますので、ご自由な意見をいただけたらという形をお願い申し上げたいというふうに考えておりますが、3月19日ぐらいを予定しているんですが、ご予約のほうはいかがでございましてでしょうか。

○委員 すみません。私、その日は出席できないかもしれないです。

○委員 すみません。中央図書館の改修計画のご意見というのは、すみません、具体的に、ちょっと私、ぴんときないんですけど。

○中央図書館次長 すみません。一応、実行計画を予定しているんですが、この図書館も建てられてから30年近くなりますと、配管とかいろんなものが相当傷んでいるんです。排水、配管のほうをかえなくちゃいけないんですけども、そうすると、全部、壁なんかも取り外さなかったらいけないかったり、いろいろそういう計画もございまして。ついては、中の壁なんかのほう、抜ける壁と抜けない壁もあるんですけども、そういうのを一応変えるとか、できるのもありますけども、その辺のほう、レイアウトなんかを、変えられるのは変

えてみたいなというふうには考えているんです。それ、変えるに当たって、やはりご利用の方のご意見のほうを聞く必要があるかと考えまして、まず図書館協議会様のほうにこういうふうの問題があるんだということでお話のほうをさせていただきまして、ご意見のほうを聞けたらなというふうには考えているんです。

○中央図書館長 これ、ちょっと大きい話なものですから、私のほうから。

実は、この夏、だから第2回になりますかね。第1回的时候に年間計画を申し上げて、区の長期の計画の中に中央図書館が、今、次長が申し上げたように改修時期を迎えているということで、具体的には29年度に基本設計ということで、区の計画としてはもう予定しております。そういたしますと、28年度、つまり来年度が、その基本設計をするためのスキームを組み立てて、実際の予算を幾らここの改修の設計の経費がかかるのかと。どのぐらいそのグロスの経費がかかるのかというのを、来年あらあらを見た上で、29年度の予算に設計の予算を立てて、早ければ30年度に改修を始めて、どのぐらいの期間になるかというのはちょっとまだ未定ですけれども、進めていこうと考えております。

それで、ちょうどそのときに、私のほうからたしかお話し申し上げたと記憶しているんですけれども、ご意見をお伺いしたいという。リップサービスでなく、少しお時間をとってと。ところが、大体、図書館協議会は年4回ないし5回の年もあったんですけど、4回の年というのは大体定例の報告、サービス評価やこういった報告をしてしまいますと、大体これで使ってしまうんですね。10年ほど見ました。どんなことをやっているのかなと。それですので、5回やった年も、この三、四年に一遍ぐらいは5回開催した年も、ちょっとあると見ていましたので。

もしくは、大変年度末のお忙しい中で申しわけないんですけれども、主に中央館の改修で、私どもも少し、資料というよりも、こういう形で中央館ができて、こういうふうにありますよ。あと、現状がこうですよという資料もご提示しながら、まずはここは附属機関という位置づけでございますので、図書館協議会の委員の方に、個別というよりはある程度自由に、こちらからこういうふうにご意見を論じてくださいというよりは、ちょっとお時間の固まりをつくって、少しご意見をお伺いしたいというようなことを考えておりました、年度末の忙しい時期でございますけれども、このやっとなら第5回目が、ちょっと今回、1月中に第4回目が開催できましたので、第5回目、いかがかなということで、今、次長のほうから会長を通じてお諮りをしているところでございます。

○会長 すみません。利用者アンケートにも書いてあって、ああ、私と同じ思いをしてい

る人もいるんだなと思ったんですけど、1階の雑誌やなんかを見るところが、病院の待合室みたいな形の椅子が並んでいて、何かあれはちょっと似つかわしくないような感じがしたんですけど、そういうものは、改修しても、そういうものも対象になり得るということでしょうか。

○中央図書館長 こちらもまた、私のほうから。ちょっと大きい話ですので。

基本的には、給排水、空調衛生という、水回りとお家でお家で言う、ここが30年たちますので、かなりもう営繕のほうから見ていると、ちょっと経年劣化をしていると。建物自体の躯体は、恐らく50年から60年は、しっかりと建築して、これは耐震も大丈夫だということが出ております。主なものはそれでございますが、これにあわせて、つまり30年前の給排水衛生、空調、電気の設備ですので、今の設備とはこの電気一つとっても違う。スペースの違い方、こういったものも違います。こういったものを更新することによって、有用なスペースも少し生じるだろうというのは考えております。

もう一つは、当時、たしか昭和57年のときですけれども、その前に設計になりますので、当時としてはここは最高、最新、恐らく基礎的自治体としては最高水準のレベルで、区制50周年という大きな節目のときの記念事業として建てたというふうに聞いておりますけれども、最新の設備でございましたが、実は昭和56年の設計というのは、まだ電算システムが入っていないときなんですね。入り口に鍵を全部置いてと。もう既に電算化が目の前に迫っていて、実はそれをやりながら電算室を1個用意していたという時代と聞いております。そういうような形で、30年間の間に施設更新、つまり使う動線も大分変わってきております。こういったものも当然今と同じものでなく、また会長がお話いただいたように雑誌の見方とか、こういったものもこの30年間で実は少しずつレイアウトも変えているんですけども、いかんせんその30年前の基本設計ということがありましたので、こうしたものについても、躯体とか、次長が申し上げたように大幅な全てを入れかえる、あるいは建物全ては無理ですけども、内部の動線、こういったものの有用スペースについては十分配慮できるかなというふうに考えております。

○会長 どうぞ。

○委員 いいですか。2階のさざんか通所学級でしたっけ、あそこはどうなるんですか。

○中央図書館長 こちらにつきましても、今、さざんかのあり方、こういったものについて、非常に子どもたちが日々活動されて、いろいろ経緯があって入ったというのは聞いておりますけれども、生涯学習部門、いわゆる教育委員会、私ども図書館も、教育委員会、

教育部門の一つということの中で、さざんかについてのあり方をさざんか自身のほうで、これはちょっと今すぐじゃないんですけども、改修に合わせまして、来年その検討に入りますので、その中で効果が、我々は非常に実は仲よくやっている部分もあるんですけども、それをお示しした上で、どういうふうにしていくのかというのは教育委員会全体で、図書館でどうのというよりは教育委員会全体の中で出て、ここは別に図書館の土地というよりは教育委員会の中で図書館が使っている土地ですので、場所ですので、この中で検討していくものというふうに私どもは考えてございます。

○委員 利用者団体というのが幾つかあると思うんですけども、例えば私でしたら文庫サークル連絡会、その外の委員でしたら科学読物研究会とか、そういう人たちの意見交換とかそういう場は、ぜひお願いしたいんですが。

○中央図書館長 はい。ありがとうございます。まずは図書館協議会をやった上でということ。

○委員 はい。

○中央図書館長 いや、これはやはり附属機関としての位置づけでありますので、私が今年度お約束申し上げて、お話をお伺いしたいということで、ずっと喉元まで出ていたんですけど、なかなか定期的な会議の中で時間を使ってしまいましたので、これと同時に、今言ったような、関係する団体の方についても広く、また杉並区の場合は利用者のアンケート、満足度調査などもとっておりますし、もしかしたら、そういう図書館をふだん余り使わない方の意見もちょっと、何か方法はないかなとか、ちょっといろいろと思いつくことはありますけれども、ご意見は十分承りたいと考えております。

ようやくここまで体制を整えましたので、まずはそのときで、まずはちょっと自由なご意見ということで、今回ちょっとご提示させていただいております。

○委員 すみません。本当に3月のこのころって、ちょっと厳しい時期なんですね。それで、中学校は18日が卒業式で、卒業式が終わりゃいいじゃないかじゃなくて、その後ちょっといろいろと事後の処理があるものですから。それと、ちょっと今は、以前からもお話ししているように、ちょっと土曜日にいろんな行事もあるものですから、今のちょっとお話を伺っていると、改修のためにこれを開いて皆さんから意見を吸い上げるというだけだったら、会議を開く意味があるのかなということと、会議の能率化の原則は原案提示なので、もし皆さんからのリクエストが欲しいということだったら、意見を集約しておいてどこかで反映するとか。何かほかに案件がないんですしたら、ちょっと想像しても、皆さんが

いろんなことを言って、言いつ放しの会議になるぐらいでしたら、ちょっと仕事をさせていただきたいなと思うんですが。どうしてもということだったら、無理をしても来ますが。

○中央図書館長 はい。これも、実は、先生のお話を聞くと、先生のとおり18日は中学校の卒業式の、私も区長代理で、ほかのところでございますけれども、出席はもう、ちゃんと下命が来ております。で、終わった後の翌日、翌々日は学校は非常にいろんなことがあるというのも伺っておりますので、大変そこは、実はきょうの日程設定の中でも、年度末ということとは十分わかっておりますので、大変申しわけなく思っております。

ただ、もう一つは、個別な今のご意見の意見聴取は大変ご参考になります。その中で、委員さん方同士の少し意見交換という場も、ちょっと設けてみたいなど。ただ私どもが意見を聞くだけならば、メールでご意見をどうぞと。それをこういう意見がありましたよというところでも、お話しのとおり非常に効率としてはよろしいんでございますが、一見少し非効率的に見えても、このこういう会議の場で少し皆様方、この1年間になります、4回いろいろ、さらにサービス部会まで参加いただきましたので、こういう中の委員の方がちょっとご発言を、意見交換をしていただくというのも私どもとしては非常に有用だと感じておりますので、今回そういった形で申し上げた次第でございます。

先生、どうもすみません。よくわかっておりますので。

○会長 各委員の皆さん、いかがでしょうか。

○委員 協議会の目的というのは、館長の諮問に答えるというのが一つあるかと思うんですね。この大改修か改修か、それは別として、やはりこの中央図書館というのがどういうふうになっていくのかということは、協議会の根本的な命題にも触れるものだと思うんですね。

私はもう全く勝手に素人ながら、その公園を中央図書館と一体化して、そういうことをやっている図書館というのはいっぱいあちこちにあるんですけども、これ、もったいないですよ、その公園が。だから、そういう一体化構想をしながら、杉並の図書館というのはこんな構想も発展も考えているですよというようなことを、やっぱり協議会委員として語ってみたいという感じがしますので、そういう機会を与えてくださることについては、僕はありがたいと思っております。

○会長 ほかにいかがでしょうか。出席できない方もいらっしゃると思いますので、そういう方はご意見はあらかじめメールか何かでお知らせいただいて、19日の日に出席できる

方だけでも、申しわけないんですけど、いろんな意見を言うチャンスでもあるので、行いたいと思うんですけども。よろしいでしょうか。

○中央図書館次長 ありがとうございます。

○中央図書館長 もう一つ。もし、きょうちょっと19日でご了解、ある程度内諾いただけるということであれば、ちょうど中央館の改修と関係するのでございますけれども、あわせて、今我々が、区の事務局のほうでは、図書館基本方針にある情報化の取り組みや蔵書のあり方の管理のあり方とか、こういったものも、これは改修とも結構リンクするんですけども、こういったものも現在調整中でございますので、これはご報告ということになりますけれども、あわせて事前に、改修についても、現在の我々が考えているタイムテーブル的なところ、区の計画、こういったものの資料を事前にお送りして、また情報化の取り組みや蔵書管理のあり方、こういったものについても、中央館の改修は一番大きくなりますので、ただ地域館もこれは情報化や蔵書の管理というのは出てきますので、事前にその資料もお送りして、少しご意見いただければというふうに考えておりますので、ちょっとあわせてご連絡申し上げます。

○会長 ほかに。何か言い忘れたご意見やなんか。

それでは……

○副会長 すみません。

○会長 はい。すみません。

○平尾副会長 前回もちょっと申し上げたんですけど、来年度の会議予定表を次回にはちょっとお示しいただけないかなと思います。今年度1年間で大体様子がわかりましたので、少なくとも協議会4回分は定期的に最低果たさなきゃいけない義務のようなので、その分だけでも……

○中央図書館長 そうですね。はい。

○中央図書館次長 かしこまりました。

○副会長 年間計画、予定表を出していただければと思います。

○中央図書館長 わかりました。次回、先ほどお話し申し上げた、事前にお送りするときに、大枠でございますけれども、大体こういう予定と、大体この時期ですということで、例えば今考えておりますのは、次々回ぐらいで、次回ですともう1カ月とかになっちゃいますので、もう1個先ぐらいの日程をそのときにコンクリートできるようなところで、ちょっと考えてみたいと思います。

○会長 よろしいでしょうか。

それでは、これで平成27年度第4回の図書館協議会を終了いたします。議事進行について皆さんのご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。

《以上は、会長編集の協議会記録》